旅ムサステイ in いすみ

活動報告書

旅ムサステイ in いすみ
活動報告書

発行：
武蔵野美術大学
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
TEL：042-342-7945

編集：
武蔵野美術大学
法人企画グループ　社会連携チーム

デザイン・イラスト：
佐久間 茜

印刷・製本：
株式会社グラフィック

発行日：
2019 年 2 月

contents

1 実施概要

2 いすみ市立大原中学校　美術部との活動

3 ムサビ卒業・修了制作展ツアー

4 いすみ市立大原中学校　3 年生との活動

5 武蔵野美術大学　参加学生からのコメント

6 関係者からのコメント

旅ムサステイ in いすみ

日程：　夏　2018 年 8 月 26 日（日）～ 9 月 3 日（月）
　　冬　2019 年 1 月 24 日（木）～ 1 月 31 日（木）
場所：　いすみ市立大原中学校
企画・運営：　武蔵野美術大学　法人企画グループ　社会連携チーム
　　いすみ市役所　水産商工課
協力：　いすみ市立大原中学校

1 実施概要

「旅ムサステイ in いすみ」とは

旅ムサステイは、武蔵野美術大学の学生が全国各地の小中学校を訪れ授業を実施する、旅するムサビプロジェクト（通称：旅ムサ）内の活動で、学生が旅先に1週間から2週間程度滞在しながら、小学校などの施設を借りて作品制作を行い、作品展示や対話型鑑賞、黒板ジャックなどをする試みです。
2016 年度より、武蔵野美術大学と千葉県いすみ市は、連携及び協働による地域活性化の調査研究や地域課題の解決などを目的とし、域学連携に関する協定を締結しています。
これまでも、いすみ市の大原漁港荷捌場でのファッションイベント「MAU COLLECTION 2016『DEN』」（2016年）や、国吉神社での展覧会「祠と精霊」（2017年）など、「美術・デザイン」を用いた特色のあるプロジェクトを実施してきました。
今回の「旅ムサステイ in いすみ」は、地域活性化事業の一環で、「小・中学校、高等学校との連携」、「美術・デザインに触れる機会の創出」をするため、武蔵野美術大学の学生たちが夏と冬の2回に分けていすみ市に滞在しながら、いすみ市立大原中学校の生徒たちと、様々なプログラムを実施しました。

スケジュール

2018年6月ごろに学生 8 名がチームを組み、夏の活動に向けて計画を立て、市や中学校とのやりとりも学生自身が行い、美術部との共同制作のための内容のすり合わせや、材料の準備を進めました。さらに、冬の活動にはメンバーを一部入れ替え 7 名の学生が参加し、共同制作に加え、公開制作や対話型鑑賞の活動を計画し、活動中は市内の「かねも荘」に滞在しながら中学校に通い、プログラムを実施しました。

夏　2018 年 8 月 26 日（日）～ 9 月 3 日（月）

8/26(日)	8/27(月)	8/28(火)	8/29(水)	8/30(木)	8/31(金)	9/1(土)	9/2(日)	9/3(月)
学生 現地入り	打ち合わせ	美術部との共同制作			黒板ジャック 制作	学生帰京		黒板ジャック お披露目

冬　2019 年 1 月 19 日（土）ムサビ卒業・修了制作展ツアー
2019 年 1 月 24 日（木）～ 1 月 31 日（木）

1/24(木)	1/25(金)	1/26(土)	1/27(日)	1/28(月)	1/29(火)	1/30(水)	1/31(木)
学生 現地入り	美術部との共同制作 公開制作				公開制作	対話型鑑賞 授業	学生帰京

2

いすみ市立大原中学校　美術部との活動

夏　初めての共同制作。コットンボールランプづくりと、夏休み中に内緒で黒板ジャック＆窓ジャック！

大原中学校美術部との初めての活動は、夏休みに行ったコットンボールのランプづくり。カラフルな風船にひもを巻きつけて乾燥させ、ライトを入れたランプをつくって展示しました。ランプの乾燥中には校内の窓ジャック。さらに、夏休み明けに登校してくる生徒たちへのサプライズとして、内緒で教室の黒板に作品を制作する「黒板ジャック」も行いました。初めて黒板ジャックをするメンバーも多いなか、美術部の皆さんと協力しながら個性豊かな８つの作品が完成しました！

（共同制作：2018 年 8 月 28 日～8 月 30 日／黒板ジャック：8 月 31 日）

アンケートより

黒板ジャックをやったのが心に残りました。黒板に絵を描くことはあまりないし、絵が完成していくまでの過程を間近で見ることができました。

美術の授業では普段できないような体験がたくさんできたし、大学生のみなさんとも触れ合うことができました。

黒板ジャックや窓に落書きをするのは、普段なかなかできないからできてうれしかった！

冬　２度目の共同制作は５mの作品づくりにチャレンジ！

夏の活動につづき、２回目の共同制作では5mのロールキャンバスを使って、卒業する３年生に向けて「HOPE（希望）」をテーマに作品を制作。マスキングテープを貼ったキャンバスに、ローラーや手を使ってダイナミックに絵の具をのせていき、最後はテープを剥がして仕上げました。とても大きなキャンバスでしたが、1枚目はあっという間に完成し、すぐに2枚目に取りかかりました。（2019 年 1 月 25 日～1 月 28 日）

アンケートより

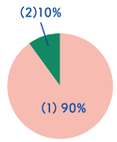
共同制作で一緒にムサビのみなさんと絵を描いたり、黒板ジャックができて楽しかったし、もっと美術に興味が持てました。

ムサビのみなさんと交流したことで、美術の楽しさを改めて感じることができました。スポンジやローラーなど、普段使わない道具を使ったり、普段は描かないやり方で描けたことが、とても貴重な体験でした。

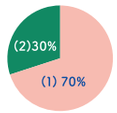
あまり知らない人としゃべったり、共同ですることが苦手だったけど、ムサビの皆さんと制作をして、楽しいことがわかりました。

アンケート結果

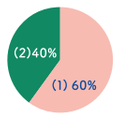
対象：大原中学校　美術部生徒
回答数：10 名



Q1. 夏と冬の旅ムサはおもしろかったですか？
(1) とてもおもしろかった
(2) まぁまぁおもしろかった
(3) ふつう
(4) あまりおもしろくなかった



Q2. 夏と冬の旅ムサを通じて、美術・デザインにどれくらい興味が湧きましたか？
(1) とても湧いた
(2) まぁまぁ湧いた
(3) ふつう
(4) あまり湧かなかった



Q3. 今後もこうした活動をやってみたいと思いますか？
(1) 強く思った
(2) まぁまぁ思った
(3) ふつう
(4) あまり思わなかった

夏と冬を通した旅ムサは、ほとんどの美術部員から大好評で、今後もこのような活動を望むという声が多くありました。
ムサビ生と共同で実施した黒板ジャックや作品制作は、普段ではできない体験で強く印象に残り、ものをつくる楽しさを感じることができたようでした。

3

ムサビ卒業・修了制作展ツアー

冬 ようこそムサビへ！ 不思議な作品に興味津々の卒制ツアー

ムサビでは学生の制作研究の集大成として、1月末に卒業・修了制作展を開催しています。大原中学校での冬の活動を前に、大原中学校の美術部の生徒10名をムサビにお招きし「平成30年度 卒業・修了制作展」の見学ツアーを行いました。学生が各会場を案内し、油絵や日本画、彫刻のほか、建築や漫画、パフォーマンスなどの作品も鑑賞。途中、美術館・図書館の見学をしたり、学食で昼食をとったりと、普段学生が過ごしている大学の雰囲気も味わってもらうことができました。
朝早くにいすみから来てくれた生徒たちでしたが、最後まで真剣な眼差しで多くの作品を鑑賞してくれました。(2019年1月19日)

4

いすみ市立大原中学校　3年生との活動

冬 「なにが描いてあるんだろう？」「こんな発見があった！」学生作品の鑑賞

学生が制作した作品を学校に持ち込み、作品を前に生徒と対話しながら鑑賞を行う活動を、旅ムサでは「対話型鑑賞」と呼んでいます。今回は大原中学校の3年生4クラスとともに、対話型鑑賞の授業に取り組みました。学生が「ファシリテーター（作品の案内役）」となり、油絵や彫刻など様々なジャンルの作品を鑑賞し、さらに制作した学生のはなしを聞いて、それぞれの見方を深めていきました。
また、学生メンバーは校内での公開制作にも取り組み、授業時間外でも多くの生徒と交流を行いました。（公開制作：2019年1月25日、29日／対話型鑑賞：1月30日）

アンケートより

絵を鑑賞して答えは一つではなく、感じたことをみんなでシェアすることはとても楽しかった。

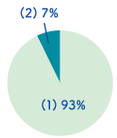
絵の鑑賞の仕方がすごく変わった。絵に少し興味を持てた。

絵や作品は、綺麗さや上手さだけではなく、自分の想像や思いを表すものだと知りました。

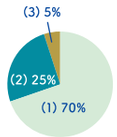
作者が作品をどのような気持ちで描いたかなどは教科書ではわからないから、作者の気持ちを直接聞けて良かった。

アンケート結果

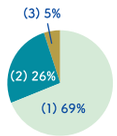
対象：大原中学校　3年生
回答数：121名



Q1. 大学生との美術の授業はおもしろかったですか？
(1) とてもおもしろかった
(2) まぁまぁおもしろかった
(3) ふつう
(4) あまりおもしろくなかった



Q2. 今回の授業を通じて、美術・デザインに興味が湧きましたか？
(1) とても湧いた
(2) まぁまぁ湧いた
(3) ふつう
(4) あまり湧かなかった



Q3. このような対話による鑑賞授業をまたやってみたいと思いますか？
(1) 強く思った
(2) まぁまぁ思った
(3) ふつう
(4) あまり思わなかった

対話型鑑賞は、参加したほとんどの3年生から好評で、多くの生徒が美術・デザイン、対話による鑑賞授業に興味を持ったようです。色々な絵の見方があることに気が付いたと同時に、自分の考えを伝えること、他人の考えを聞くことの大切さも感じたようでした。

5

武蔵野美術大学　参加学生からのコメント

江田 さくら（夏の代表）
視覚伝達デザイン学科２年

私はこれまで多くの小学校・中学校で黒板ジャックやワークショップを行ってきましたが、一週間という長期間の中で中学生と交流し制作するという試みは初めてでした。黒板ジャックを経験していない7人のメンバーにどう指示するのか、また中学生はどんなことに興味を持ってくれるのか、夏休み前から計画はしていたものの、私は出発の日が近づくにつれてこれから出会う人達への期待と無事に終えることができるのかという不安を寄せながらいすみ市にやってきました。緊張している私たちにいすみ市役所の方々をはじめ、大原中学校の先生方には大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいでした。私がこの旅ムサステイ inいすみで一番印象に残っているのは、共同制作や黒板ジャックでの制作の際に大原中学校の美術部の生徒さんが笑顔になった瞬間でした。初めはお互いに緊張していたものの、最後の日には笑いあって写真を撮れたことが、その年の夏の一番の思い出になりました。

村奈 将太（冬の代表）
油絵学科 油絵専攻１年

私は冬の旅ムサの代表を務めさせていただきました。いすみ市の子どもたちは学校以外で美術に触れる機会がほとんどないと伺っていたので、旅ムサを通じて美術の面白さや可能性を少しでも伝えられれば良いなと思い、活動したことを覚えています。私が特に印象に残ったのは、冬に行った対話型鑑賞による授業です。対話型鑑賞は、今まで鑑賞授業をあまりやったことがない３年生を対象に行いました。作品を鑑賞することに苦手意識を持った子が多くいたらしく、最初は戸惑っていた様子でした。そこで自由に意見を言えるような雰囲気にするために、ファシリテーターだった私も少しだけ発言をしてみたところ、それに続いて次々と自分の考えや感想を自発的に言ってくれました。最後には「大学生の考えも聞けて楽しかった！」と言ってくれて、嬉しかったです。私はこの出来事から、多くの視点から物事を捉えて発言していくことの大切さを改めて感じることができました。

新根 日和
視覚伝達デザイン学科１年

私ははじめ黒板ジャックに興味があって夏の企画に参加させていただいたのですが、その時に中学生たちと交流したのが楽しくて、冬も参加することを決めました。これまで年下の子たちと交流した経験があまりなく、夏の旅ムサ前は不安もあったのですが、数日間一緒に制作しているとだんだんと打ち解けることができました。冬の公開制作では、自分が思っていたよりもずっとたくさんの生徒たちが制作の様子を見にきてくれて「すごい！」「どうやって描いているの？」と興味を持ってくれたのが嬉しかったです。夏冬ともに活動の最終日に手紙をくれた子もいて、それもまた嬉しくて、すごく温かい気持ちになりました。この旅ムサに参加したことで、私は「絵やモノづくりを通して人と関わること、誰かに喜んでもらえること」が好きなのだと気付き、自分自身について見つめ直すきっかけにもなりました。とても素敵な時間を過ごすことができて、本当に参加してよかったです。

高石 実奈
芸術文化学科１年

夏と冬に参加させていただきました。夏には黒板ジャックと窓ジャックをやり、窓ジャックでは中学校の生徒と一緒に描くことになったときに、最初は皆「何を描いたらいいのか分からない」と言っていたのですが、いざ本番となったときにはそれぞれ好きな絵を描き始め、「楽しい！」と言ってくれたことが嬉しかったです。冬では対話型鑑賞を行うことになり、生徒たちはどこまで答えてくれるだろうかと不安に思っていましたが、皆真剣に取り組んでくれて、私の絵を見せたときに「ここに蝶の影がある！」「この子どもは男の子じゃないかな？」など、自分ではあまり突っ込んでくれないだろうと思っていた部分まで指摘してくれたので、とても嬉しくなりました。その他にも「この窓のようなものは実は絵」など、私自身考えてこなかったことも指摘してもらえたのが斬新でした。

6

関係者からのコメント

森 優子
いすみ市立大原中学校　美術科教諭

2回にわたるこのプロジェクトを通して、何より私が素晴らしいと感じたことは、ムサビの学生たちがいつも生徒たちに寄り添い、話を聞き、自信を持って制作すること、表現することの楽しさを自然体で教えてくれたことです。初めはおっかなびっくりだった生徒も、「これでいいんだ」「こんなことしても大丈夫なんだ」と新たな発見をし、自分自身を解放するきっかけになりました。初めて出会う材料、方法、考え方。一緒になって考え、表現する手助けをしてくれました。生徒たちは多くの体験を通して美術が持つ楽しさや可能性を見つけたのではないでしょうか。また、このプロジェクトをきっかけに私自身が改めて気づいたことは、美術を学ぶ事も大事だけれど、美術を通して学ぶことの多様さです。コミュニケーション力、思考力、企画力、発信力。どれも社会で大切な事ばかりです。
今後も生徒が自由な発想で考え、発信する美術を模索していきたいです。
多くの可能性を与えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

成澤 胡珀
いすみ市立大原中学校 美術部部長

武蔵野美術大学の皆さんとの交流はとても楽しかったです。普段の活動では体験できない黒板ジャックや、窓に描くこと、美大生の制作の様子を鑑賞することを通して、改めて美術の楽しさを感じることができたからです。
一緒に活動して印象に残っていることは、あえて手を使ったり、絵の具をそのまま垂らしたり、筆ではない道具を使って描いたことや、普段描けない黒板や窓に描くことができて、とても新鮮だったことです。公開制作では、間近で制作している様子を見たり、様々なジャンルの作品に触れることができ、貴重な経験でした。また、絵を描くことが苦手な私でも、ムサビの皆さんがアドバイスをくれて、最後まで楽しく活動をすることができました。会話をしながら一緒に活動して、とても楽しかったです。ムサビの皆さんとの交流は、短い期間でしたが様々な体験をし、沢山の楽しい思い出を作ることができました。また機会があれば一緒に交流したいです。

隈部 清丈
いすみ市　水産商工課　産学金官連携班

旅するムサビプロジェクトを夏と冬の2回、いすみ市立大原中学校の美術部とともに実施していただき、ありがとうございました。夏の合宿では、コットンボールランプづくり、黒板ジャックを企画・実施していただき、黒板ジャックではイセエビ、タコ、ブルーベリーなど当市の特産品を含めた8枚の黒板がアート作品に変わりました。始業式当日には各クラスから歓声が上がり、記念撮影をしているクラスもありましたが、始業時間と同時に絵が消され、生徒たちが悲しんでいたことが印象に残っています。冬の合宿では、卒業生に向けて「希望（HOPE）」と題した共同制作をはじめ、公開制作、対話型鑑賞を企画・実施していただき、多くの生徒が美術に触れることができました。対話型鑑賞では、個人により見え方や感じ方が違い、美術には答えがないということを改めて感じました。普段、美術に触れる機会の少ない生徒や私にとって非常に貴重な経験になりました。

中田 実香
いすみ市　水産商工課　産学金官連携班

夏は黒板ジャックと共同制作（コットンボールランプづくり、校舎の窓のペイント）、冬は公開制作と対話型鑑賞、共同制作（大きなキャンバスに卒業生へのメッセージを込めた作品）と、夏冬違うコンテンツで、中学生へ美術の楽しさを伝えてくれました。しっかり一つひとつの作品と向き合い、作品の表面に見えているものだけでなく、奥にある作者の心情や意図まで考えることができ、美術に興味がある生徒だけでなく、興味がなかった生徒にも、とても刺激になったと思います。
「美術の世界には正しいも間違いも答えもない。上手も下手も人それぞれだから、人と比べるのではなく自由に表現をすることが大切。」旅ムサメンバーが中学生に残してくれたこの言葉が、とても心に残っています。
物の見方が広がれば、日々の生活が広がる。日々の生活が広がれば将来が広がる。中学生にとっても私たちにとっても、新しい発見があり、学びあうことのできた内容の濃い時間でした。

MAU